



ガンバレ!先生 応援サプリ

連載最終回は、教師自身のキャリア形成についてのアドバイス。
生徒へのキャリア指導をする一方で、なかなか自分のキャリアについて考えることが難しい……。
そんな先生方への処方箋です。

取材・文／清水由佳 撮影／関本陽介 イラスト／藤井昌子

処方箋⑤

熱中力で自分のキャリアを切り開く!

キャリア形成を考えたくても
環境的に矛盾が多い

生徒のキャリア教育を行う一方で、先生自身のキャリアに関しては「多い」のではなく、「少ない」のが教員なのであれば、指導主事になりたい」と思ったからといつて指導主事になれるわけでもないし、突然予想外の高校に異動することもある。先生自身にキャリアを選択する自由が与えられないということが現状です。そのためステップアップのルートが見えづらく、キャリアを考えるには、環境的には矛盾だらけと言えるでしょう。しかし、教師自身も自分なりのキャリアを考えることは必要です。「キャリア」とは、自分なりのテーマを持つて自分の人生を作っていくこと。けれども、自分のテーマが見つからず、毎年同じように生徒に教科を指導する繰り返しに、教師を続ける意味を見失い、辛くなってしまう先生が多いのも事実です。

まずは目の前にある仕事を
必死にやってみる

では、どうやつたら自分なりのテーマ

いう職業は、本当に素晴らしい。最高の仕事だと私は考えています。

る。そんな予防を大切にしてください。

やりがいが大きいからこそ
ブレークをかけることも大事

自分なりのテーマを追求するという

が見つかるのか。「番は、「目の前にある仕事を必死にやってみる」といいます。「自分はここを目指したい」と思っていたとしても、なかなか思うようなボジションに異動できないのが教員なのであれば、逆に「たまたま与えられた」と必死に取り組んで、自分のテーマとしていく。

キャリア心理学のクランボルツが言う「Planned Happenstance Theory」(計画された偶発性)に則って、偶然を必然に変えていくのです。

特に若い先生にこそ、今日の前にあることに熱中していただきたい。それは教師だけに特別なことではなく、世の中の多くの若者が、「これは私がやりたい」とは違う。「んなはずじゃなかつた」と思うのと同じ課題に直面しているのです。キャリアアップの根源は「熱中力」です。

自分なりのテーマを追求するということは、単に現在の仕事だけでなく、自分の人生も豊かにしてくれます。自分の知識や研究テーマを持つことで、教師という職業です。

やりがいが大きくなってくると、給料分だけ働くという意識がなくなり、「お金の問題じゃない」とのめり込んで仕事にブレークが利かなくなってしまうことがあります。特に40～50歳代の働き盛りの先生に多いのが、「このケース。不眠や過労死などの、深刻なケースに発展する場合もあります」「働きすぎかな？」と思つたら、自らにブレークをかけな?」と思つたら、自らにブレークをかけな?」と思つたら、自らにブレークをかけな?

自分のテーマを追求して
人生を豊かに過ごす

自分なりのテーマを追求するという

ことは、単に現在の仕事だけでなく、自分の人生も豊かにしてくれます。自分の知識や研究テーマを持つことで、さまざまな出会いがあり、学校や職場を超えたネットワークにつながります。また、大学院進学や、場合によっては海外留学など、幅広い選択も視野に入れ、長い目でキャリアを形成していくましょう。自分自身が多くの経験をし、豊かな人生を送ることは、子どもたちのキャリア教育に、ブームランのように戻ってきて役立つ」とでしょう。



諸富祥彦先生 (<http://morotomi.net/>)

もろともよしひこ●明治大学文学部教授、臨床心理士、教育学博士。1963年福岡県生まれ。筑波大学人間学類・同大学院博士課程修了。千葉大学教育学部助教授を経て、明治大学文学部教授に。全国の悩める教師のためのセルフヘルピングやネットワーキングを支援する「教師を支える会」代表。時代の精神(ニヒリズム)と闘うカウンセラー。『「7つの力」を育てるキャリア教育』など、教師を応援する著書多数。